

大学院

担当 風みどり

◇解答者総数 32名

◇全題正解者 22名

誤無ABC平均

①若島 正 271840%∞

②上田吉一 112350%∞

◇院1 入選66回

箕面市 若島 正

一 二 三 四 五 六 七 八 九

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	馬	銀	飛	香	王			龍
馬	香	銀	香	王				龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍

持駒 なし

☆作意を並べただけで作者の

途中図1 14龍

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	馬	銀	飛	香	王			龍
馬	香	銀	香	王				龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍

持駒 なし

☆54玉と逃げるのが正解らしい。対しては14龍しかない。

☆33香合は同香成、同歩、42飛成、同玉、44香、43飛合、52香成、31玉、97馬以下。

☆44飛という手もあるが、同玉、42飛生、43歩合、45歩、54玉で後続手がない。初手13飛成は順当だろう。

☆44飛という手もあるが、同玉、42飛生、43歩合、45歩、54玉で後続手がない。初手13飛成は順当だろう。

想いが伝わってくる作品もある。変化と紛れの森に踏み込む必要がある作品もある。

☆少し読むと24合、同龍、同とという展開になることがわかる。仮に24歩合として同龍、同銀だと55歩、43玉、32銀生、同銀、44歩、同玉、42飛成、43歩合、45歩、同玉、78馬から34馬がある。34に利きを作るために同とが必然なのだ。

☆同とだと78馬の筋が使えない。代わりに36金、44玉で打歩詰。しかし先の42飛成を42飛生に修正すれば、打歩は回避できて、45歩、53玉、62飛成迄。

☆すると24の合駒は香車か。歩合と同様に進めると……。

☆42飛生としても55香が強く、打歩詰が解消できない！歩合できる所であえて強い駒である香を合駒する「玉方応用香先香歩」。これが

失敗図1 44玉

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	馬	銀	飛	香	王			龍
馬	香	銀	香	王				龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍

持駒 歩

作意だろうか。

☆24香合の場合は59香と打つのが妙手だ。

変化図1 59香

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	馬	銀	飛	香	王			龍
馬	香	銀	香	王				龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍
香	馬	香	桂					龍

持駒 なし

☆59香のココロは何か。43玉

先香歩」をすべて1局の
で実現してしまおうと狙
だったのだ。

☆このテーマの先行作として

は七條兼三「将棋墨酔」52
番（近将1988年11月号）が

ある。飛、金、銀の不利
手を1局に詰め込んだが惜
しくも余詰。つまり4種を
全て1局で実現した作品は

本作が初めてである。

☆ここからは収束。作意を初

めから一気に並べておこ

13飛成、54玉、14龍、24銀

同龍、同と、63銀打、同金

同銀生、同歩、64金、同歩、

81馬、72香打、同馬、同香、

59香、57飛合、同香、同成桂

55飛、44玉、42飛生、43銀合、

45飛、同玉、36金、54玉、

45金、同玉、43飛成、44角合、

同龍、同玉、57王、88桂成、

④45歩、53玉、54歩、63玉、

75桂、74玉、63銀、73玉、

62角、82玉、83桂成、同玉、

72銀生、同玉、75香、74歩合、

同香、83玉、73角成、94玉、

95歩、同玉、86金打、94玉、

85金右、同歩、95金迄63手、

⑤で36桂は53玉なら詰むが、

54玉で逃れる。

作者―上田さん曰く「飛先飛

歩でくれた飛車を、不利交

換で歩に代えようとしたら、

香先香歩で受けられた、と

いう実例はないね。それ

で作品にしたのですが、そ

の頃から「香先香歩＋銀先

銀歩＋金先金歩＋飛先飛歩

をいつべんにやるような作

品はできないかなあ」と考

えるようになりました。本

作は「銀先銀歩で貰った銀

を不利交換にいつたら金先

金歩で受けられた」という

前半と「香先香歩で貰った

香を不利交換にいつたら飛

先飛歩でいけられた」とい

う後半をつなぎ合わせた構

成になっていて、4種が出

揃う間、後手の54玉は不動

である、場所を変えずに4

種を実現させているという

のが本局の主張です。

☆確かに飛先飛歩で貰った飛

車を交換にいつたら、また飛

で受けられたという作品な

ら、数多くはないが思い出

せるし、理解できる。持駒

歩なら詰むが飛車では詰ま

ないという局面を創り出せ

れば良いわけだ。しかし持

駒が4種変わるとなると変

化と紛れをどう切り分けれ

ばよいものやら想像もつか

ない。若島正をして「途方

もない夢」と言わしめたの
もむべなるかなである。

国兼秀旗―ひたすら高い合駒

ばかりで打歩詰に誘致して

くるところが小憎らしい。

変化も難解で心地良い疲労

感を得ました。

野口賢治―銀の移動合をはじ

め打歩誘致の不利合駒、更

に窮余策の逆王手と玉方

べ―スが見所満載だった。

今川健一―最初に「打歩詰は

禁止」と決めたのは誰かと

思う。若島氏らしい奥深い

作品です。

☆詰将棋作家だと思えます。

鈴木彊―打歩詰の攻防は迫力

十分。盤面全体に関連して

いて見応えがありました。

小林徹―歩を呉れ、いや遣ら

んとストーリー―は進む。36

手目88桂成の局面はこれで

いいのかなと思うが、意外と綺麗に収束する。

和田登一合駒探しは至福の時間。

池田俊哉一作者の力を感じさせる作品。特に前半36とを入手するまでのやり取りは面白い。

須川卓二一歩(と)でよいと

ころを銀を金を香を渡す後手！打歩をめぐる好防が見事です。

☆このテーマを仮に「四種不利応手」と呼んでみたい。空前の作品である。詰将棋の新しいカテゴリーを切り拓いた作品となるだろう。

◇院2 入選77回

京都市 上田吉一

- 56 飛、同玉、57 歩④55 玉、
- 56 歩、54 玉、55 歩④同玉、
- 58 龍、56 飛合、同龍、同玉、

一二三四五六七八九

9	8	7	6	5	4	3	2	1
		盛香	鬮	香				
					盛龍			
桂	銀	銀	歩	角	王	香		
銀	歩	飛	盛	鬮	香			
			龍	王	鬮	香		

持駒 なし

- 54 飛、55 飛合、同飛、同玉、
- 54 飛、55 飛合、同飛成、同玉、
- 53 飛、54 飛合、同飛成、同玉、
- 34 飛、55 玉、35 飛、56 玉、
- 34 飛、55 玉、56 歩、同玉、
- 54 飛、55 飛合、同飛、同玉、
- 58 飛、56 飛合、同飛、同玉、
- 58 飛、57 飛合、同飛、同銀生、
- 54 飛、55 飛合、同飛、同玉、
- 53 飛、54 飛合、66 成桂、同銀成、
- 54 飛成、同玉、53 飛、同玉、
- 43 成桂、62 玉、61 成香、同玉、

62 銀、同玉、95 馬、71 玉、

73 香、62 玉、72 香成、同玉、

83 銀左成、61 玉、62 馬、同玉、

73 銀成、61 玉、72 成銀左迄

79 手。

① 同銀成は66 成桂、同玉、77 馬、

56 玉、45 角迄。

② 同銀生は67 成桂、同桂成、

同龍、55 玉、56 香迄。

③ 53 玉は43 香成、62 玉、61 成香、

同玉、51 成桂以下。

④ 58 飛は57 角合で逃れ。

⑤ 同銀生は同飛、同玉、46 銀、

56 玉、66 成桂以下。

☆5筋に閉じ込められた玉。

合駒の選択も易しい。飛打ち飛合のリズムを楽しみながら自然に作品世界に入り込む事ができる。すんなり解けてしまった方も多いだろうが、解決には二重に掛けられた錠を開かねばなら

ない。

途中図A 12手目

9	8	7	6	5	4	3	2	1
		盛香	鬮	香				
					盛龍			
桂	銀	銀	歩	角	王	香		
銀	歩	飛	盛	鬮	香			
			龍	王	鬮	香		

持駒 飛

一二三四五六七八九

☆メインの錠は59馬を如何に活用するかだ。質駒に見える95香を入手するには68銀と77成桂を片付ける必要がある。

☆その為に56玉に対し、58飛と攻める。57飛、同銀生と銀を移動させようというわけだ。
☆ところがこの錠、二重に掛けられている。58飛には57角合とされて詰まないのだ。

途中図B 44手目

			盛	歩	香					
					成桂					
持駒	桂									
飛	銀		銀	歩						
	皇				王					
			盛	皇						
			王	歩						
					香					
					馬					

☆そこでこの局面から32手かけて魔法のように35歩を消す。この手順ブロックが変化伏線になっているという仕組みだ。

☆最後の鍵は77成桂を捨てるタイミング。正解は55玉に対し、飛合を予約してから66成桂と捨てる。先に捨てるら桂合されるので当然なのだ。が、巧いものだ。
☆そして53飛や62馬と短編詰将棋のように鮮やかに大駒

を捨て去つての収束。

高坂研―57角合の変化に備えて35歩を消去し、68銀を動かしてから更に53飛―54飛の形で66成桂と捨てることで、漸く59―95のラインが貫通して収束に至るといふストーリーは十分に面白く、全体を通して作品の構造を解明する愉しみに溢れている。纏め方もまさしく長編のお手本のように、流石は上田さん！

メントだと思う。

鈴木彊―飛と龍による攻防は詰将棋の醍醐味十分。正に芸術そのものです。収束も決まっています。竹中健―全て飛合だと思つていると角合をウツカリしそうになります。あの歩をうまく消すものですね、感心します！水谷―12手目の局面から57に角合をさせないよう35歩を消去して44手目の局面へ。

国兼秀旗―どの変化も易しく、自然に作者の意図した面白い手順へと吸い込まれていくのが実に爽快である。

凡骨生―飛龍)の王手に飛合8回にエレベーター詰を絡めてあり楽しめました。◇総評中沢照夫―「盤上のファンタジア」「極光21」は詰将棋の奥深さを教えてくれた宝物です。

【全題正解者】

草間準二―角打ちを妨げる35歩の配置が凄い。この歩のお陰で、いやこの歩を置いた事で本作は長篇作となつた。この歩を消去し、57に打つ。ロジックや図形感覚が鋭い一方で、解き手にホツとした喜びを与えてくれる。本当のエンターテイ

難しくないが面白い趣向。池田俊哉 今川健一 大下 進
加賀孝志 神谷 薫 日下通博
国兼秀旗 小林 徹 斎藤博久
須川卓二 鈴木 彊 高沢武夫
竹中健一 躰躰 永島勝利
野口賢治 福村 努 凡骨生
三宅周治 宮本慎一 吉田清二
和田 登

【当選者】 誌代1ヵ月分入帖